



さくら 2008 夏

発行
社会福祉法人 東桜会
第 20 号
〒420-0962
静岡市葵区東 527 番地の 1
特別養護老人ホーム 麻機園
TEL 054(247)8739
FAX 054(247)8640

『 明治 41 年 6 月 24 日生 祝 100 歳 』



100年前の今日、金作さんは静岡に生まれました。赤いちゃんちゃんこを着た金作さんは、食堂に集まった入所者や職員に迎えられ、いつもの様子と違い、少し照れているように見えました。普段は無口で、丸い目を大きく開け、口をしっかりと結んで、ちょっと 怖い人？ と思われてしまう事がある金作さん、今日は皆の温かい拍手と笑顔にびっくりしたようです。

『100歳おめでとうございます』とお祝いの声に、『ありがとう！』と大きな声でお礼を言って下さいました。そして、大きなケーキに立った口ウソク10本の火を「ふうー、ふうー」と力強く消している姿が、とても男らしく印象的でした。一本一本火が消えて行く度に、周りから「わあー」「おおー」と歓声が上がりました。

ご家族から「静岡鉄道に勤め、一生懸命働いていました。一家の大黒柱として、自分がしっかりしなきゃいけないという思いが強い人でした」とご紹介があり、昔の金作さんを思い浮かべる一時でした。

明治生まれの男らしい、頑固者 を絵に描いたような金作さんですが、本当は心の優しい方だって事を、みんな知っていますよ。言葉は少なくても、その優しい目から伝わってきます。

今日、金作さんの人生の大きな節目に立ち会えた事を、私達はとても嬉しく、感謝します。これからも金作さんらしくお元気で。来年もきっとお祝いしましょう。



～ 「夏祭り」 へのお誘い ～

祭りの季節がやってきました。8月23日に「東桜会夏祭り」を開催します。ゲームや食べ物の出店、恒例の「麻機太鼓」の演奏もあります。祭りと聞いてウキウキしてしまうのは、きっと私だけではないはずですよ。

入所者とご家族の皆様、楽しい夏の思い出になりますよう、スタッフ一同頑張ります。皆さまのご来園を心よりお待ちしております。

夏祭り実行委員長
栗田早季子

開催日 8月23日(土)

- 時刻 午後4時～6時頃迄
- 場所 ケアハウス桜花玄関前、駐車場
雨天時 麻機園さくらの広場
- アトラクション：麻機太鼓
- ゲーム : ひも引きゲーム、輪投げ
玉入れ、シャボン玉
- 食べ物 : たこ焼き、たい焼き、かき氷
焼きそば、フランクフルト、
綿菓子、駄菓子売店など
- 介護相談 : 桜花ヘルパーステーション



～何でもご相談下さい！～



4月から麻機園の生活相談員になりました。新しい仕事で、戸惑いや失敗がたくさんありますが、仲間に支えられながら、毎日が過ぎ、戸惑いや失敗も楽しさに変わって行きます。

今まで、ヘルパーステーション、居宅支援事業所、グループホーム等、色々な部署で仕事をして、それぞれに楽しさ、大変さがありましたが、高齢者に会える喜びはどこでも変わりません。「あなたに会えて嬉しいよ」と言われ、元気になり、笑顔で迎えられ、安心をいただき・・・時には愚痴を聞いてもらう事もあり、どちらがケアして、どちらがケアされているのかわからないほど、高齢者の方々には支えられてきました。「ケアをしてあげた」なんて自分勝手に思っている、同時に自分がケアされているという事を実感する事が多くなりました。これからも、支えられているという感謝を忘れずに、日々を送って行きたいと思います。

生活相談員 秋山真由美

事務所より、こんにちは

私は小学生の頃、理学療法士になって老人ホームか肢体不自由児施設で働きたいと思っていました。しかし、6年生の時父が他界してから母の手伝いに追われ、いつの間にか夢を諦めていました。それでも、何かしたいと高校生の時はJRC（青少年赤十字）という部活動を通してほんの少しですがボランティア活動をしていましたが、それだけでした。それから何年か過ぎ、職種は違って子供頃に働きたいと思っていた老人ホームという場所で働けることになり、今はとても感謝して仕事をしています。

さて、私達事務員は面会時の受付の他、入所者の皆さまが外出や散歩にお出掛けになる時にお見送りに出たり、お帰りになった時にお出迎えしたりする位で、なかなか直接お手伝いする機会は少ないのですが、とても大切な場所で仕事をしていると思います。私が麻機園で働くようになって7年が過ぎ、その間2回産休を頂き、面会にいらっしゃるご家族の皆さまや入所者の皆さまから、たくさんの温かいお言葉を頂きました。皆さまから頂いた温かい気持ちを少しでもお返しできるよう事務員3人で頑張っていきたいと思いますので、これからも宜しくお願い致します。



事務員 根岸由美子

「ありがとう」

赤堀 倫宏

5月上旬のある日、夢から覚めると目から涙が溢れていた。久しぶりに、母の夢を見た。

時々、自分や家族に心配事が出来たり、不安に思うことがあると夢に出てきてくれる。何も言わないのだが、微笑ましく見守っていてくれる。平成十四年二月享年五十二才でこの世を去った母に最期まで言えなかった言葉、それが「ありがとうだ」。

母親は無敵だと思っていた。どんな難病で倒れようと元気で帰ってくるものだから、そんな言葉は元気なときにまた言えればいいか、と思っていた。

母の日にになると、麻機園にもたくさん家族が来園され、カーネーションや手紙などのお土産を置いていかれる。何も、母の日だからありがとうと言っただけではなく、このような仕事をしている私達は、日常的にありがとうと言ったり、言われることがある。どちらかといえば、利用者がいて自分たちがいるのだと先輩たちに教わり、そう思ってきた。様々な人が暮らし、当たり前のように毎日が有る。いつも同じ顔ぶれが有り、日替わりで働く自分たちがいる。毎日の暮らしにお邪魔させてもらっている。当たり前の暮らしの中で交わされている言葉の中に「ありがとう」がある。

縁がありこの仕事を始めて七月で八年目になる。利用者が救急搬送される時や、終末期に立ち会つことが多くあった。そんな中で、ある利用者の家族が夜中に来園され、ベッドの横で手を握りながら最期を看取ることがあり、その場に立ち会つことになった私たち夜勤者に、「ご家族から「ありがとう」と言いました」という言葉を頂いた。私はどちらかと言えば、最後の時を私のいる日に選んでもらった事にお礼が言いたい。共に暮らし、それを援助してきた人たちの中から選ばれ、今までに数回しかないが、今日逝く利用者の最後に立ち会えたことが有り難いと思う。

最近、「ありがとう」という曲を聴いた。「あなたの元に生まれて本当によかったと、今こうして胸を張って言いきれる・・・今、心からありがとう」という歌詞にジーンと来た。今は、ホントに胸を張って言いきれると思う。こういふのを、結婚式や母の日に送ると感動されるのかな？と思いつつ、久しぶりに墓参りに行き、墓前で話しかけてきた。そして、実家の父親に「俺はまだ生きてる」と怒られながら「ありがとう」と言った。

デイサービスを無料で1日体験できます。まずは 209 - 2619 までお電話ください。